

小さな診療所の出来事 2

船橋ファーム・アシスト・サービス
獣医師 船橋 史憲

肉用鶏における大腸菌症の発生は多大な被害を及ぼしています。図1は主に大腸菌症による死亡状況を示したものです。この群はM孵化場由来の雛で、入雛時より体格にバラツキが多く、雛質も良くなかったようです。1日で100羽を超える死亡鶏が見られてから鑑定の依頼があり、肝包膜炎や心膜炎が激しく数種の薬剤で対応しましたが、死亡鶏が減るのに10日間ほどかかり、著しい効果はありませんでした。しかし生存鶏は食欲が増進し、群の活力も上昇しました。(39日齢以降の死亡鶏の増加は猛暑によるもの)

図2は図1と同時に餌付けしたE孵化場の雛で雛質はととても良く、案の定残存も良く、投薬もなしで経過しました。(但し30日齢以降は暑さによる死亡が多かった)

図3は図1と同じM孵化場の雛で虚弱なものが見られ、バラツキが多く、良くありませんでしたが20~22日齢にニューキノロン系薬剤で処置をしました。呼吸器症状が出始めてから5~6日後でしたが、死亡も少なく呼吸器症状も治まり、活力や発育は改善しました。この群も今年の猛暑による熱死が30日齢過ぎから見られ、またその後壊死性腸炎もみられました。

この農場は3ヶ所の孵化場から導入していますが、1社の雛があまりにも悪く、願い出て次回から取り止めにしました。図1の群も図3の群も同様に12~14日齢から呼吸器症状が見られましたが、死亡雛はなく、死亡鶏が増えてから対策しましたが、多大な被害となりました。7月の中旬よりこの農場に毎週訪問し、孵化場の選別と症状観察や病理解剖を定期的に行いながら、投薬のタイミングを前に変更しました。その後死亡羽数は激減し、現在は生菌剤の予防的投与を行っています。

図1 大腸菌症による死亡曲線

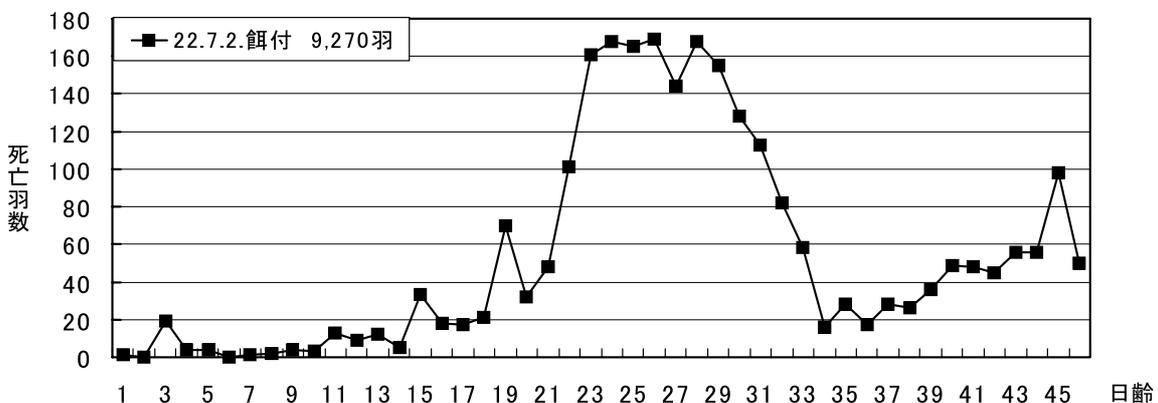


図2 図1と同時餌付け群 E孵化場

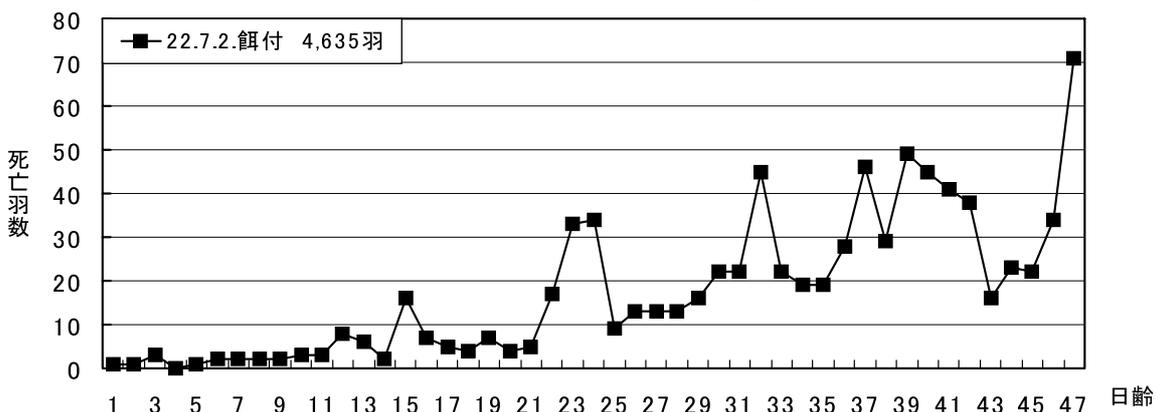
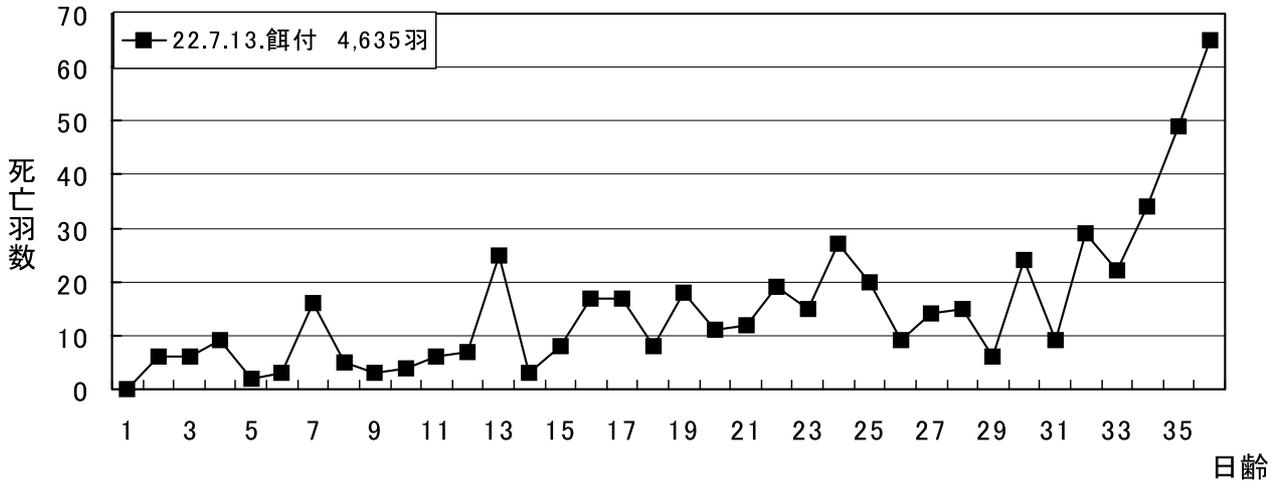


図3 大腸菌対策が成功した群







日生研

NBBEG

新発売!

不活化オイルワクチン

鶏に与えるストレスが小さい
オイルアジュバントワクチンで0.2mL注射

- ニューカッスル病 (ND)
- 鶏伝染性気管支炎 (IB 石田・宮崎)
- 産卵低下症候群-1976 (EDS-76)
- 伝染性ファブリキウス嚢病 (IBD)

要指示 動物用医薬品





日生研株式会社 <http://www.jp-nisseiken.com/>

〒198-0024 東京都青梅市新町9-2221-1 ☎ **0120-31-5972**